

8 小児・成人水俣病とは

【水俣病になったら、どんな症状になるの？】

汚染された魚を食べ続けると、体の中にメチル水銀がだんだんたまっていきます。そして、メチル水銀中毒になったのが小児・成人水俣病です。

魚に入っていたメチル水銀は、体内のいろいろなところに運ばれ、とくに脳などに運ばれたメチル水銀は、脳や神経細胞に障害をあたえ、下の表のようないろいろな症状をひきおこします。水俣病が発生した初めころには、症状が重く、狂ったような状態になって発病してからわずか数日で死んでしまう患者さんもいました。

また、体の中のメチル水銀は、おしっこやかみの毛、つめなどにまじって体の外に少しずつ出ていきますが、体の中のメチル水銀がなくなっても、一度破壊されてしまった脳の細胞を元にもどすことは難しいため、水俣病を治す治療法はないといわれています。患者さんたちは痛みをやわらげるためのはり・きゅうや薬などにたよるしかありません。



主な症状

- ・手足がしびれる
- ・痛みを感じにくい
- ・熱い物や冷たい物にさわっても感じにくい
- ・動きがぎこちなくなる
- ・言葉がはっきりしない
- ・相手の言うことが聞き取りにくい
- ・目に見えるはんいがせまくなる
- ・頭痛
- ・においや味が分かりにくい
- ・つかれやすい

9 胎児性水俣病とは

【水俣病のまま生まれてきた赤ちゃんは、どんな症状が出てくるの？】

お母さんのおなかのなかにいる赤ちゃんが水俣病になって生まれてきた場合を、胎児性水俣病といいます。汚染された魚を直接食べていなくても、妊娠中にお母さんが汚染された魚をたくさん食べると、メチル水銀がへその緒を通じて赤ちゃんの体内に入り、赤ちゃんが水俣病になって生まれてくることがありました。ですから、親からの遺伝によって子供が水俣病になるわけではありません。

胎児性水俣病の患者さんはお母さんのおなかの中にいるときにメチル水銀によって障害をうけたため、脳がうまく発育しなかったり、脳の神経細胞が破壊されたりして、症状の重い人の多くは、幼いうちに亡くなくなりました。



みんなといっしょに遊んだり、学校に行ったりすることもできないまま、死んでしまった子どもたちがいたんだね。